

ヘルパンギーナについて

新潟県福祉保健部感染症対策・薬務課

1 流行状況

- 令和5年第26週（6月26日～7月2日）に全県での定点当たり報告数が、国が示す警報基準（定点当たり6）に達したため、全県に警報を発令しています。
警報の終息基準（定点当たり2）を下回るまで、警報を継続します。
- 令和5年第30週（7月24日～7月30日）の定点当たり報告数は全県で6.69と、前週の6.98に比べ減少しました。
- 例年夏季に流行する疾患であり、社会福祉施設における集団発生の報告もあることから、今後の動向に十分な注意が必要です。
下記3を参考に、予防を心がけましょう。

2 ヘルパンギーナとは

- ヘルパンギーナは、主にコクサッキーA群ウイルスを原因とする、発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発しんを主症状とした感染症です。主に夏季に流行するいわゆる「夏かぜ」の代表的疾患です。
- 2～4日の潜伏期の後、突然の高熱、咽頭痛や咽頭発赤を呈し、口腔内に水疱や発赤が現れます。水疱は破れて痛みも伴います。
- 2～4日で解熱し、7日程度で治癒します。高熱による倦怠感や口腔内の痛みなどから、食事や水分を十分にとれず、脱水になることもあります。
- 合併症としては、熱に伴う熱性けいれんと、まれに髄膜炎や心筋炎が生じることがあります。
- 大人に感染することもあるので、子供に限らず大人も感染予防に心がけてください。

3 予防方法

- 患者の口粘膜から出たウイルスを含む唾液による飛沫感染、便中のウイルスによる経口感染、水疱内容物からの接触感染といった経路で感染します。
- 回復後も、便の中に長期間（2～4週間）ウイルスが排出されます。感染しても発病せず、ウイルスを排出する人もいます。
- ◎ 感染予防のため、次のことに注意しましょう。
 - (1) 食事の前、遊んだ後、トイレの後、帰宅後など、普段から石けんと流水による手洗いを行いましょう。
 - (2) オムツ等の処理の際は、排泄物が周囲につかないように注意し、処理後はしっかりと手を洗いましょう。
 - (3) タオルの共用は避けましょう。

4 学校保健安全法における扱い

- 学校保健安全法には明確に規定されていません。
- 登校登園については、医師の指示に従ってください。